

平成 30 年 2 月 春日町図書館指定管理者連絡調整会議 議事要録

日時	平成 30 年 2 月 23 日（金） 13 時 00 分から 13 時 40 分まで
場所	光が丘図書館 第一会議室
出席者	<p>(1) 光が丘図書館（以下「光」） 管理係長、運営調整係長・係員（2）、事業統括係長、子供事業統括係長 ※光が丘図書館長は欠席</p> <p>(2) 春日町図書館指定管理者（株式会社ヴィアックス）（以下「春」） 春日町図書館長、同館業務従事者、本社スタッフ（2）</p>
内容	<p>① 施設管理について</p> <p>（光）ギャラリーの状況は。 →（春）以前から指摘を受けていた、ギャラリーの有効活用・雰囲気作りの一環として、1 月下旬から 2 月上旬にかけて、図書館所蔵の複製絵画を展示した。多くの方楽しんでいただくよう解説も掲示し、併せてギャラリーの貸出利用を増やそうと、ギャラリーの利用方法や空き状況も壁に掲示して分かるようにした。展示等でギャラリーを使用していると、専用の照明で明るくなることや、人通りで良い雰囲気作りができる。今後も、貸出利用がない時は、図書館側で複製絵画を展示するなどして、活用していきたい。</p> <p>（光）2 月にバイクで来館した利用者から苦情があった件について →（春）図書館では、障害者用の駐車場しかないこと、エリム春日町の駐車場はあるが有料であることを案内している。今回、バイクで来館した利用者がエリム春日町の駐車場にバイクを置こうとした際、警備員に図書館の利用者は置けないとの話を受けたとの苦情だった。警備員に確認したところ、一般利用として駐輪は可能とのことだったので、間違った案内をしないよう上の方に伝えてもらうようにした。</p> <p>→（光）きちんと伝わったか再度確認し、併せてバイク用の駐輪スペースが埋まっていた場合の対応についても確認しておいてほしい。</p> <p>（光）エントランス部分の照明について →（春）二階の図書館入口付近は間引いていた蛍光灯を補充して明るくした。階段の踊り場については、これまで電気を消していたが、常に付けるようにして明るくなっている。一階の入口付近はまだ薄暗く LED 照明に変えられるかなど対応を検討したい。</p> <p>② 一般事業について</p> <p>（光）12 月実施の「本の装備体験講座」について →（春）図書館資料の扱いの向上や本に対する親しみを深めてもらいたいと、初めて実施した事業。最初に装備方法を職員が説明しながら実演し、その後で、実際に職員が使用している道具を使って区の装備マニュアルに沿った作業を体験してもらった。練習後は参加者自身が持ってきた本に装備をしてもらった。</p> <p>（光）1 月実施の「図書館福袋」について →（春）一般および青少年向け 64 袋、児童向け 31 袋を用意し、1 月 5 日から開催した。全部を一遍に並べるのではなく、福袋が少なくなったら補充する方法で、4 日目の 8 日に</p>

は 95 袋全ての貸出しが終了した。企画が定着し、楽しみにしている利用者の方がいるため、来年度のシステム更新に伴う臨時休館の対応について検討が必要と考えている。

(光) 1 月の「新聞閲覧優先席を設けてほしい」との苦情について

→ (春) 当日の新聞ではなくストック用の新聞綴りを閲覧する方のご要望である。現状では新聞優先席はない。対応としては、新聞ストック棚の近くに調べものコーナーの閲覧机があるので、この内の 4 席程度を優先席として設けようと考えている。

(光) 今後実施する予定のビブリオバトル体験会について

→ (春) 体験会は初めての試み。ビブリオバトルも 7 回目の開催になるので認識されてきたが、アンケートでは、自分もやってみたいとの声があったので、まずは参加するきっかけになればと体験会を催すことにした。体験会は、春日町図書館のビブリオバトル部に参加している利用者と一緒に実施し、興味があれば入部できる流れにしている。また、ねりま若者サポートステーションの方にお手伝いや体験をしてもらえればと思い、声を掛けている。

→ (光) 支援校の児童・生徒にも声を掛けてみては。

→ (春) 小学校でビブリオバトルを実施している学校もあるようなので検討する。

### ③ 児童サービス事業について

(光) 12 月、1 月の学校支援の状況は。

→ (春) 冬休みに貸出しをしていた学校は、一度に借りられる貸出可能冊数を増やして対応した。貸出しをしていない学校は蔵書点検を行った。練馬小学校や田柄中学校では、図書館と同じように「本の福袋」を実施し、子供たちの読書意欲向上につなげた。他校でも同じ取組を実施していきたいと考えている。

(光) 家庭での読書推進向上に向けた考えについて

→ (春) 先生や保護者から「学校では本を読むが家では読まない」と相談を受けたことがある。学校では友達が本を読み、先生が読み聞かせをする機会があるが、家ではそういった機会はなく、自然に読書につながる環境にない。子供たちが家でも本を読むようになる習慣としては、保護者の方が本を読んでいる姿をみせて、一緒に本を読む環境をつくるのが大切であると思う。

(光) 1 月開催の「ブンブンゴマを作ろう」について

→ (春) 今回、会議室ではなく児童コーナーの机を使用して、初めて書架でのイベントを行った。通りすがりの方が興味を持たれたり、工作終了後、その場でレファレンスの対応もできたりしたので、また実施したい。

(光) 3 月実施予定の「パパと一緒にわらべうたで遊ぼう」について

→ (春) 乳幼児向けのおはなし会など、読み聞かせをするにはまだ小さいお子さんを対象とする場合は、遊びながらコミュニケーションが取れるわらべうたを取り入れている。そこで、パパをはじめとして、家族連れで参加してもらい、わらべうたを覚えてもらったり、遊んだりして楽しんでもらおうと企画した。わらべうただけでなく、会の最後には、子育て支援向けの書架を紹介する図書館ツアーのようなものを予定している。